

令和5年11月30日

I はじめに

令和5年12月市議会定例会を招集申し上げましたところ、議員の皆様には御出席いただき誠にありがとうございます。

提出いたしました議案をはじめ、市の重要案件の審議につきまして、よろしく願い申し上げます。

さて、今月、私に与えられた任期も折り返しを迎えました。これまで市政運営に全力で取り組んでこられましたのも、市議会議員の皆様をはじめ市民の皆様のご理解と御協力のおかげであると、心から感謝申し上げます。

市長就任以来、こども総合支援センター「あのえっと」の開設、新たな教育支援センター「SaSaLAND」の開設に向けた準備、「新型コロナウイルス感染症有識者会議」による協議、観光や農業等のトップセールスの実施など、公約の全ての項目について着手することができました。しかしながら、人口減少、少子高齢化の進行、多様化する市民ニーズへの対応など、刻々と変化する社会情勢の中で、本市が第五次長野市総合計画で掲げるまちの将来像「幸せ実感都市『ながの』」の実現には道半ばであると認識しております。

私の任期後半となる今後の2年におきましては、今後の取組方針を「長野市の強みを活かした未来への投資」として、これまでの取組の着実な「定着」、将来を見据えた「変革」、長野オリンピック・パラリンピックのDNAを未来につなぐ「挑戦」の三つを柱に、全力で取り組んでまいりたいと考えております。

一つ目の「定着」として、まずは、子育て支援の充実や経済の活性化など、これまで実施してきた様々な取組の着実な定着を図るとともに、成果につなげてまいりたいと考えております。

二つ目の「変革」として、住民自治リフレッシュプロジェクトや中山間地域の在り方の研究のほか、中心市街地の魅力創出など、将来の長野市を見据えた新たなアプローチによる課題解決を進めたいと考えております。

三つ目の「挑戦」では、1998年長野オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の開催から得たDNAである子どもたちの参加をはじめとした経験や誇り、また、オリンピック施設や街並みといった「まち」としての機能など、こうした長野市の強みを、時代を超え、形を変えながら、長野市の未来につないでまいりたいと考えております。

具体的には、「子どもの夢を育てる」「スポーツによるまちづくり」「チャレンジできるまち」「NAGANOを発信」の4つのテーマのもと、長野市の価値を見つめ直し、長野市ならではのまちづくりに継承したいと考えております。

これらの三つの柱のもと、取組を更に加速化し、暮らしの向上につながったと市民の皆様に変化を実感していただけるよう市政運営を進めてまいりたいと考えております。

推進に当たりましては、企業、高等教育機関、地域などの様々な方々の協力の下、官民一体で取組を推進するとともに、市役所を「組織からチームへ」として、市職員が自発的に情熱を持って共に考え、行動するよう意識改革を進めながら、私自身も全身全霊をかけて取り組んでまいります。

議員の皆様、また、市民の皆様には、一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

II 財政運営

次に、財政運営について申し上げます。

政府は、足元の物価高への対応などを柱とした「令和5年度の総合経済対策」を策定し、その財源の裏付けとなる補正予算案について、今国会において審議され、成立しました。

このため、本市におきましても、県や各省庁からの情報取得に努め、必要な経費については財源を最大限に確保してまいりたいと考えております。

次に、本定例会に提出いたしました一般会計補正予算案の主なものにつきまして、その概要を御説明申し上げます。

東京圏等から長野市に移住し、就業等をされた方に支給する移住支援金につきましては、今年度から、子ども加算分を増額してきたところですが、申請件数が想定を大幅に上回り、今後も多くの申請が見込まれることから、本市への移住を検討されている方への更なる後押しとなるよう、支援金の

支給に要する経費を増額しました。

また、市民生活の安全・安心の確保として、自転車の安全利用のための高校生世代及び高齢者を対象とした自転車用ヘルメットの購入に要する経費の一部補助のほか、災害時の指定避難所として利用される社会体育館及び学校体育館の夏場の暑さ対策のための空調設備の設置・検証に要する経費を計上しました。

「青木島こども未来プラン」につきましては、青木島小学校区の諸課題を解決するため、これまで保護者や関係者と意見交換をしながら必要な修正を行い、決定したことから、青木島小学校の環境整備等に要する経費を計上しました。今後のプラン実施に当たりましても、保護者や関係者の皆様の御意見をお聴きしながら、丁寧に進めてまいりたいと考えております。

さらに、「長野市こども“のびのび”ビジョン」に掲げた公園の機能の充実を早期に具現化するため、公園施設の魅力及び機能の向上を図るための施設整備等に要する経費を計上しました。

このほか、適正な工期を確保するための繰越明許費及び来年度以降の事業の早期執行や施工期間の平準化等を図るための債務負担行為を設定するものです。

次に、令和6年度当初予算について申し上げます。

令和6年度当初予算につきましては、長野市が持つ強みを活かした新たな取組に積極果敢にチャレンジしていくとともに、将来にわたってまちの活力を維持向上していくための未来に向けた投資を行っていくことが必要であると考え、「長野市の強みを活かした未来への戦略的な投資」を編成の基本方針とし、現在、編成作業を進めております。

このため、将来を担う子どもたちの成長に向けた取組、地域経済・農業の振興、インバウンド誘客による観光消費の促進、中心市街地の活性化による新たなにぎわいの創出、新産業の創造やスポーツの基幹産業化等に予算を優先配分するとともに、令和10年の国民スポーツ大会に向けた施設整備関連等につきましても、健全財政を堅持しつつ、着実な事業の実施に向け、予算を積極的に配分してまいります。

Ⅲ 市の動向

次に、本年度の主な施策・事業の動向について申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症対策について申し上げます。

新型コロナワクチン接種につきましては、9月20日からオミクロン株XBB.1.5対応ワクチンを使用し、生後6か月以上の方を対象とした「令和5年

秋開始接種」を実施しているところです。

冬期にかけて新型コロナウイルスの感染が拡大するおそれがあることから、年末までに接種を希望する全ての方が接種できるよう、医療機関等の御協力の下、引き続き接種体制の確保に努めてまいります。

次に、災害から4年が経過した令和元年東日本台風災害からの復興につきましては、長野市災害復興計画に基づき、着実な進捗を図っているところです。

このうち、甚大な被害が発生した千曲川につきましては、国により、立ヶ花から村山橋間の堤防強化、立ヶ花狭窄部の河道掘削、遊水地整備など、信濃川水系緊急治水対策プロジェクトに基づいた事業が、令和9年度完了を目標に鋭意進められております。また、遊水地整備につきましては、本年度になり、中野市の上今井、千曲市の埴生遊水地が事業着手されており、さらに本市に計画されている「塩崎遊水地」につきましては、この冬から順次用地交渉を進めていくとお聞きしております。市では、現在、事業用地に係る農地について、代替地の調整を行うなど、地域と国の調整役として、令和9年度の完成を目指して事業促進に努めているところです。

さらに、(仮称)豊野防災交流センターの整備につきましては、令和6年8月のオープンに向けて順調に工事が進んでおりますが、労務単価が上昇したこと等に伴う変更請負契約につきまして、本定例会に議案を提出しております。

引き続き、長沼地区の河川防災ステーションや復興道路を含め、ハード・ソフトの両面から、治水対策や復興支援を着実に進めたいと考えております。

次に、都市ブランディングの推進につきましては、本市が、未来に向けて「選ばれる都市」となるために、市民の皆様のお意見をお聴きしながら、本市の固有の価値、都市ブランドの明確化に向けた取組を進めてまいりました。

この取組の一環である、「長野市らしさ」を短い言葉で表現する「タグライン」につきましては、市民アンケートの結果を参考にしながら、3つの候補から「FEEL NAGANO, BE NATURAL この街で、わたしらしく生きる。長野市」を選定するとともに、本市の多様な価値と可能性を、本市の風景を想起させる5つのカラーで表現した「ロゴ」を作成し、先日発表したところです。

今後、市民の皆様への周知を図りながら、市として広く活用するとともに、市内外に浸透を図ることにより、本市の「都市ブランド」への共感の輪を広げたいと考えております。

長野市都市内分権基本方針による「住民と市との協働によるまちづくりの仕組み」につきましては、これまでの検討を基に、この度、見直しの取組内容

やスケジュール、将来像を「ロードマップ」としてまとめました。このロードマップは、住民自治連絡協議会理事会や都市内分権審議会において御協議いただきながら作成してきたもので、今後「持続可能な住民自治」や「市民の皆様への更なる幸せの増進」に向けて、具体的な取組を進めてまいります。

道路交通法の改正により、令和5年4月1日から自転車利用中のヘルメット着用が努力義務化となりましたが、実感する着用率は、まだ低い状況にあります。

このため、事故の多い高校生世代や重症・死亡率の高い高齢者を対象とした自転車用ヘルメットの着用促進につながる補助制度を創設し、その経費を本定例会に補正予算案として提出したところです。こうした早期の着用率向上に向けた支援を通して、市民の皆様が「暮らしやすい」と実感できる安全・安心な社会を目指してまいります。

犯罪被害者等支援につきましては、9月に実施したパブリックコメントの意見等を反映した条例案を本定例会に提出いたしました。

今後、関係機関等との適切な役割分担と連携により、犯罪被害者の方に寄り添った支援体制を整備するなど、関係する施策を実施してまいります。

農産物の生産振興・販売力の強化の促進につきましては、先月、農産物の収穫時期に合わせ「長野市農業フェア」を開催いたしました。フェアにおいて、「ヘーゼルナッツコーナー」を開設し、来場者に苗木や実を展示し紹介したところ、大変多くの皆様の注目を集め、様々なお問い合わせをいただきました。

ヘーゼルナッツの振興に関しましては、現在、関係機関と調整を行いながら、来年度以降の取組について協議を進めており、特に、栽培拡大を図っていくために欠かせない栽培技術等の確立に向け、長野県と連携しながら取り組んでまいります。

このほか、東京都豊島区での本市の農産物のPRイベントの実施、生産者から直送された長野市産のりんごを使ったデザートの特産品ホテルでの提供など、これまでのPRに加えて、生産者と店舗・事業者を直接結び付ける取組を進めることで、農業者の皆様が「売れる農業」を実感できるよう、引き続き農業振興に努めてまいります。

水道事業広域化につきましては、上田長野地域水道事業広域化研究会において、検討・研究を重ねておりますが、これまで市民説明会の開催や、県企業局・関係市町と連携したシンポジウムの実施のほか、市民6,000人を対象としたアンケート調査も実施し、調査結果の分析等を進めております。

引き続き、県企業局、関係市町と協議し、広域化への合意形成を図りながら、

議会の皆様からも御意見をいただいた上で、広域化の検討を深めてまいりたいと考えております。

次に、子ども・子育て支援について申し上げます。

子どもの体験・学び応援モデル事業「みらいハッ！ケン」プロジェクトにつきましては、今月1日から電子ポイントの利用を開始し、自分の好きな活動を見つける、又は更に探求することで、自分の「みらい」を「ハッケン」してほしい、子どもたちが新たな世界・可能性に出会うきっかけにつなげたい、そんな思いから「みらいハッ！ケン」プロジェクトと名付け、新たなチャレンジを始めました。

所得制限を設けずに全ての小中学生を対象に体験機会を提供する本事業は全国初の取組であり、子どもたちが多様な体験の機会を得られるよう、地域や企業の皆様と協力し、まち全体で取り組んでまいります。

子どもの権利を守る条例の制定につきましては、議会の皆様とともに検討を進めていくこととしており、この度、全議員の皆様と子ども未来部を構成メンバーとした勉強会を設置する運びとなりましたので、今後、この勉強会を通じて、議会の皆様とともに、本市の子どもの実態に見合った実効性のある条例の制定を目指してまいりたいと考えております。

城山公園におきましては、現在、「ながのこども館」の整備を進めており、施設設置に係る都市公園条例の改正について議案を提出しております。今後、「親子で遊び体験できる市内で随一の屋内遊戯施設」をコンセプトに、多くの子どもたちが年齢に応じた体験ができる遊びと学びの施設として、令和6年夏のオープンに向け準備を進めてまいります。

インバウンドの推進につきましては、訪日外国人旅行客の増加に伴い、本市を目的地に選んでいただけるよう、来年1月には、主要ターゲットとしているタイ及びシンガポールの旅行会社を招請し、体験型旅行商品の造成につなげる事業を実施するほか、金沢市との連携により、オーストラリアの旅行会社と現地メディアに対して、北陸新幹線を活用した広域周遊観光プランをPRするなど、長野市の魅力を世界に発信し、更なるインバウンド誘客につながるよう取り組んでまいります。

本市の経済基盤の強化につながる産業用地の確保につきましては、将来的な産業団地開発に向け策定を進めている産業立地ビジョンの検討過程として、開発の可能性を検討するエリア9か所を選出し、先月末に公表いたしました。今後、選出したエリアの調査・評価を進めるとともに、関係者等との意見交換

なども行いながら事業化につなげてまいりたいと考えております。

次に、今後課題となる産業の人材確保、人材育成について申し上げます。

産業の振興と未来のICT人材の育成につきましては、先月下旬に「産業フェア in 信州 2023」が開催され、過去最多の149社が出展し、最新のICT関連、ものづくり分野のほか、様々な製品やサービスが集結し、未来を担う子どもたちを含む1万3千人余りの方々が来場されました。

このフェアに併せ、小・中学生を対象とした「U-15 長野プログラミングコンテスト」が開かれ、参加者が自作したゲームプログラムによる対戦が行われました。

また、今月中旬には、長野市ICT産業協議会の御協力の下、普通科の高校生を対象とした「未来のICT人材育成事業」も開催され、様々な体験を通してITの仕事や市内のICT企業について知っていただくきっかけの場となりました。

将来の地域産業を支える人材育成は、大きなテーマであることから、今後も継続的にこのような取組を支援し、IT人材の裾野の拡大につなげてまいりたいと考えております。

新産業創造に向けた取組の一環として、本年度は戦略テーマを設定して調査・研究を行っておりますが、そのうちの一つ、「宇宙利用産業」につきましては、衛星データを活用した不法盛土の検出及び地盤変動のリスク分析を、内閣府の実証事業として実施しております。衛星データについて、まずは行政の業務で活用することを呼び水に、民間での利用拡大と宇宙ビジネス創出を目指し、本市の産業基盤強化につなげたいと考えております。

IV むすび

以上、主な施策・事業の動向について申し上げます。

さて、今月11日からWEリーグが開幕し、リーグ上位を目指すパルセイロ・レディースの活躍を期待しております。また、10月からB1リーグに参戦している信州ブレイブウォリアーズは、令和8年からスタートする「Bリーグ・プレミア」の参入に向け、審査の対象となる大切なシーズンを送っており、要件の一つである「ホームゲームの年間平均入場者数4,000人以上」を目指し、チーム一丸となって取り組んでおります。

このため、スポーツを軸としたまちづくりを推進する本市といたしましても、

チームの「Bリーグ・プレミア」参入に向けて、多くの市民の皆様の応援機運の醸成、地域の活性化につながるよう、地域密着型プロスポーツチームとの連携を推進しております。

地域の活性化につながるこうした取組につきまして、議員の皆様、また、市民の皆様には、引き続き御協力を賜りますようお願い申し上げます。

本定例会に提出いたしました案件は、「令和5年度長野市一般会計補正予算」など議案43件、報告10件であります。

詳細につきましては、西澤副市長から説明申し上げますので、十分な御審議をいただき、御決定を賜りますようお願い申し上げます。